

[COMMUNION]

WEB:http://www.nskk.org/
tokyo/index.html
E-mail:comm.tko@nsk.org
PHONE:03-3433-0987
FAX:03-3433-8678
Diocese Office



第38号

(通巻1273号)

2017年7月23日

編集：広報委員会

委員長：渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18

主教復帰！ 合同堅信式に22名！

去る6月3日（土）聖アンデレ主教座聖堂において合同堅信式が行われた。休養されていた大畑喜道主教の復帰後、はじめての礼拝と重なり、聖堂は二重に祝福ムードに包まれた。
堅信式を受けられたのは10教会、22名の方々、礼拝出席者は約130名であった。



今春、神学校を卒業された大和孝明さん（元東京教区聖職候補生）と小林玲子さん（中部教区聖職候補生）が、6月24日（土）名古屋聖マイ教会で聖婚式を挙げられました
おめでとうございます！！

今年の1月から5月まで管理主教をしていただいた広田勝一主教
本当にありがとうございました

特集 「み言葉の礼拝」を考える（前編）

・まだまだマイナスのイメージがある「み言葉の礼拝」ですが、今回、礼拝学を専門にしておられる市原信太郎司祭にお話しを伺いました。

― 今日は「み言葉の礼拝」についていろいろとお聞きしたいと思います。市原 前置きとしてお話ししたいのですが、僕は神学校に入る前は長野県の会社に勤めており、岡谷聖バルナバ教会に行っていました。



― 牧師から主教に提出し、使ってもよいということになりました。ですから、岡谷の教会では1997年頃から今言う「み言葉の礼拝」を行っていたわけです。その後、神学校に行きましたので、

ずっとこのことは僕のテーマになっていました。修士論文も「信徒が司式する主日の礼拝」というテーマで書きました。

― 海外にもそのような式文はあるのでしょうか。市原 たくさんありますね。カトリックでは60年代の第二

バチカン公会議でアルゼンチンの主教が事例として紹介しています。ここでは信徒の数や地域の広さに対して圧倒的に司祭の数が足りず、司祭は主日にいくつもの教会で何回もミサをする、でもそうなる信徒の洗礼準備とか相談にのる時間もない、

そこで信徒がみ言葉を中心に礼拝をする式文が作られたのです。それからカトリックではそのことがきちんと受けとめられ、今はアメリカなどではすぐ立派で多種多様な式文ができています。

― 海外の聖公会ではどうなのでしょう。市原 イギリスでは19世紀以来の都市宣教の中で、特に手を掛けなければならぬ地域（治安の悪い地域）で教会が働くとき、当然礼拝をするわけですが、そこにいる素行の良くない若者と1662年の祈禱書で礼拝をしようとするのは漫画でしかないでしょ（笑）。そういうところでは状況にあった彼らの文化を大事にした式文を作る必要があるわけです。

また、教会に来る人が減少しているという現実の中でいろんな年代の人が参加できるという礼拝の形を模索していった時、理由は違うけどニーズは同じで、もっと地域の特徴などを生かしたフレキシブルな式文がたくさん必要になったということもあります。

― 礼拝の多様性から生まれてきたわけですね。ただ日本では司祭不足からできてきているわけで、どうしても現実に即した時に、文語のあり方も変わったはずなのに、文語の時の考え方でしている。「み言葉の礼拝」は前半部も聖餐部分と同じくらい重要だということ、改めて示してくれたと思います。多分、礼拝に遅刻する人も少なくなっただけではないでしょうか。（笑）

市原 それだけでも「み言葉の礼拝」の意味は大きいといえるかもしれないですね。（笑）

― 今度祈禱書の改正がありますが「み言葉の礼拝」についてはどうなるのでしょうか。市原 まだこれからですが、私の考えでは「み言葉の礼拝」は載っているべきだと思います。ある種の姿勢として、でもあまりきつちりしたものを祈禱書に入れると変えられなくなり、特徴である自由さが失われかねないの、付録のような形にするか、骨組みだけ載せて、本体は別冊にするということも考えられると思います。

― そうなると各教会でいろんな展開ができていいですね。市原 昔、ある教会報に書いてあったのですが、アッシュヤーの人は牧師の説教の間、庭掃除をするように教わった、それが私たちの祈りだというようなことが書いてあって、思わず説教は聞かなくてもいいのかと笑ってしまったのですが、結局後半部の聖餐があればいいんだということですよ。とすれば後半部がない「み言葉の礼拝」は、その人たちにとっては、まさにカウンターカルチャーのようなショックがあるといます。

― そうでしょうね。市原 ですから、最初に信徒による主日礼拝式文を私が作ったとき、分餐も入れたんです。聖別したパンとぶどう酒を配れるように。でも主教会でOKがでなかったのでは少しも感じます。

やはり信徒だけでみ言葉に依拠して礼拝をするというのは、すごく大変だし苦しいだろうなという思いがあったから、そこで聖品を分餐するということが行われる重要性はとも感じます。その2つは決して矛盾するものでも、共存しないものでもないんです。

市原 もう1つの理由として、やはり「主日」だからということですかね。キリスト教のごく初期から日曜日

は特別な日で、呼び名も主日とか8番目の日とか言います。ようするに7を越して8に来ると∞（無限）、

神さまの永遠の時間に繋がるという意味を表し、復活の記念日にふさわしい呼び名です。

たとえば、昔、ある自動車会社が効率化のために木曜日を休みにしたことがありましたが、その時に教会ではどうしようかと考えた末、水曜の夜にも聖餐式をすることにしたようです。さすがにそんな会社都合優先の施策はすぐに廃れてしまったようです。そこで考え方が2つあって、日曜日が休みの日で人が集まりやすいから礼拝するのか、日曜日は主日だから礼拝するのかということ

です。やはり主日（イエスの復活を記念する）という意味で大事な日だから礼拝をするということなんでしょうね。

― 海外にもそのような式文はあるのでしょうか。市原 たくさんありますね。カトリックでは60年代の第二

バチカン公会議でアルゼンチンの主教が事例として紹介しています。ここでは信徒の数や地域の広さに対して圧倒的に司祭の数が足りず、司祭は主日にいくつもの教会で何回もミサをする、でもそうなる信徒の洗礼準備とか相談にのる時間もない、

― 海外にもそのような式文はあるのでしょうか。市原 たくさんありますね。カトリックでは60年代の第二

バチカン公会議でアルゼンチンの主教が事例として紹介しています。ここでは信徒の数や地域の広さに対して圧倒的に司祭の数が足りず、司祭は主日にいくつもの教会で何回もミサをする、でもそうなる信徒の洗礼準備とか相談にのる時間もない、

テモテ河野裕道司祭を偲んで

司祭 関 正勝

河野裕道司祭は、去る5月28日18時15分脳出血で礼子夫人、2人のお子様方初穂さん、道太さんらに見守られ、緊急入院された日大板橋病院で逝去されました。1940年5月14日が司祭さんのお誕生日ですから、地上での御生涯は77年でした。77歳のお誕生日



河野裕道司祭

パウロはテモテへの手紙Iで「…キリスト・イエスによって任命され、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、信仰によるまことの子テモテへ。」と書きだし、テモテに語りかけます。「神の人よ、…信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。」

河野司祭の牧師としての最後の8年間を伝えている『めじろ教報特別号「シャローム」』は、河

野司祭のお働きを伝えていきます。2002年4月目白聖公会の第7代牧師に就任された河野司祭でしたが、2010年定年で退職するにあたって「シャローム」の巻頭言に「羊の群れよ」と呼び掛ける文章を遺し、その終わりに「司牧者として41年間、多くの教会で努めてきました。目白聖公会での8年間、喜びも幾つかの挑戦もふくめ、充実した牧師生活

を過ごすごすことが出来ました。神に感謝をささげますとともに、皆様の信仰に基づく信頼とご協力に感謝申し上げます。」

このように牧師生活を振り返りながら、しかしその長い牧師生活の中での経験をこう語られます。「自らの価値観や生活環境とは異なっている方の声に耳を傾けることは、新たな気付きにとどまらず自己変革への契機ともなることを知らされることでした。」

わたし自身も最後の2年間を協力司祭として河野司祭とご一緒に過ごしてまいりました。

わたし自身も最後の2年間を協力司祭として河野司祭とご一緒に過ごしてまいりました。

いただきましたが、パウロの言う「信仰の闘いを立派に戦い抜き」との言葉がふさわしい態度と姿勢で、時には強いリーダーシップを発揮する牧師としての働きを全うされていました。

立教大学理学部物理学の卒業で、聖公会神学院では異色の存在でした。スポーツ万能、元氣一杯の河野神学生でした。大木司祭もわたしも彼の元氣に大人しくさせられていました。

しかし、彼の歯に絹着せない発言を喜んで受け入れていました。現役時代の河野司祭は、わたしたち同僚者には厳しく接しておられましたが、しかしわたしと一緒に過ごした2年間は、丁寧でむしろ優しい方でした。教会から目白駅までの道を一緒に歩くことが時々ありました。そんなあるとき河野司祭はわたしに「関さんと一緒にこうして歩く時が来るなんてね！」と感慨深げに言葉にされました。信徒訪問のことなどで、わたしと議論になることがしばしばでした。自分の体調を労わらなければ、相手に向き合うことが出来ないから、病院に行き、休養することをわたしは勧めましたが、なかなか

「信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。」とテモテ河野裕道司祭は41年に及ぶ司祭としての働きをもって、わたしたちにも永遠の命の道を伝えてくださったことを感謝しています。



か素直には聞き入れてもらえませんでした。退職後聖ルカ病院で大きな手術をし、入院の日々が続いていました。

ご子息の道太さんが話してくださいました。『母の体調も少しずつ回復し、自分たち家族も近くに住み、やとと温かな一家の団欒があり、落ち着いた生活が生まれつつあって喜んでいた矢先の父の死でした』と。

「信仰の戦いを戦い抜かれた」河野司祭でしたが、彼は現状肯定と妥協を嫌う人だった。それ故、彼はいつも怒っていました。その信仰は情熱的でした。

「信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。」とテモテ河野裕道司祭は41年に及ぶ司祭としての働きをもって、わたしたちにも永遠の命の道を伝えてくださったことを感謝しています。

シリーズ 2017年6月の人③

三光教会に派遣されて

聖職候補生 高柳 章江

三光教会での勤務辞令を受け取ったとき、私はしばし呆然としました。三光教会はローチャー出身の私にとって、ただの「大規模教会」ではなく、伝統的な礼拝を守り続ける「ハイチャーチの大規模教会」でしたので、その荘厳で巨大な印象を前に尻込みしたのです。私は三光教会でやっていけるのだろうかという不安が拭いきれず、その不安は神に向かつていきまし



た。「どうして私が三光教会勤務なのか、聖餐式を重んじる教会に、なんの役にも立たない聖職候補生をなぜ置くのか。神さま、あなたは私にそこでなにをしろというんですか」。何度

も何度も神に問いかけました。しかし、三光教会での最初の主日聖餐式するとき、陪餐中に祭壇上の端から聖堂をなが

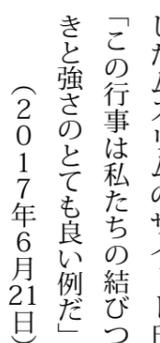
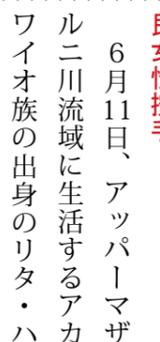
めていたときに、ふと、「ああ、神さまは私をここに置かれたんだ」と感じました。理由はわからないけれど、神さまが私をイエスの駒のようにこの教会にポンと置いたんだ、と感じると、神さまが私を用いてくださったような気持ちになり、自然に感謝の気持ちがわいてきました。

どの教会でも同じだと思いませんが、司祭や信徒さんたちは信仰や礼拝に対して一人一人違った考えや思いを持っていて、私もわかってきました。三光教会はその違いをすべて受け止めて、それぞれの思いを飲み込んで、でーんと立っているのです。まるで教会が生き物のように思えてくると同時に「教会（エクレシア）」の懐の深さを垣間見たような気がして教会に対して改めて畏敬の念もできました。牧師である神崎和子司祭

をはじめ、三光教会の信徒さんたちはみな親切にしてくださいます。引越しい間もない私の生活のことを心配してくださったり、私がうかつにも風邪をひいてゴホゴホやっているときも、多くの信徒さんが心配して声をかけてくださいました。その優しさがほんとうに心にしみました。そのような日々の中で私は、神さまは私にこの教会でなにかを学ばせたいと思っ

た。日没1時間前から主教座の見学会も行っている。参加したムスリムのサイド氏「この行事は私たちの結びつきと強さのとても良い例だ」(2017年6月21日)

「この行事は私たちの結びつきと強さのとても良い例だ」(2017年6月21日)



さあ、教区フェスティバルです！

教区フェスティバル2017

実行委員長 松田 正人



に気付くことはないですか？
エリア宣教を考えているこの数年にあつて、例えば、離

島宣教の「小笠原聖ジョージ教会」が意識のそとになつてはいませんか？

小笠原聖ジョージ教会は父島に建てられた、小笠原諸島の中で唯一のキリスト教会です。

1891年ころにジョセフ・ゴンザレス師（1905年司祭按手）により開始された伝道を受け継ぎ、今まで様々な歴史の大波を越えてきて

人、この人、顔を知っている人たちとの再会、そして顔も知らない、事情も知らない仲間。多くいてもキリストにあつて一つのからだを意識するフェスティバルにしましょう。

今のところ、その輪は60人ほどですが、大勢の参加者をお迎えしての当日、その輪は何倍になるでしょうか。

教区も教会もその存在は自分たちのためだけにあるのではなく、エリアに生きているキリストを知る人たち、そしてまだキリストを知らない人たちのためであると信じます。

次回 秋号

10月29日発行予定

係でいたい。そんな風に思います。フェスティバル実行委員長を引き受けてうれしいことは、実行委員の方たちや教会連絡員の方たちとの結びつきが実現していることです。

ポスターをご覧ください。
今年9月18日の教区フェスティバルの聖句は、コリントの信徒への手紙一12章26節を選びました。

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」

部分の苦しみを感じ、よりそい、全部の喜びを共に喜べる東京教区の仲間でありたい。

礼拝でいつも唱え確認していることですが、私たちは多くいても一つのパンに結ばれた一つのからだです。でも自分の身の回りに熱心であると、つい他への感受性が弱くなる。そんなこと

まで様々な歴史の大波を越えてきている貴重な宣教の砦です。1909年に聖ジョージ教会が献堂式を迎えてから数えると108年。現在の小笠原愛作師（アイザック・ゴンザレス師）が牧師となられてから55年が経過しています。また、小笠原諸島がアメリカから日本に返還されてから来年で丁度50年となります。

今回の教区フェスティバルではそんな小笠原聖ジョージ教会にスポットを当てます。他にも大切な課題やお働きがあることは承知しておりますが…。

一方、年に一度の教区フェスティバル、自分の教会の人以外に、あ

ちょっと聖書、ときどきユーモア（三十二）

1. ス々の感動

信徒「先生、今日の説教は素晴らしかったです。感動しました」
牧師「ありがとうございます」
信徒「たぶん、こんな気持ちは3年ぶりだと思います」
牧師「それはそうでしょう、3年前にも同じ説教をしましたから」

2. 自転車

信徒「先生、都内だと自転車で動くのが便利だと思いますので、教会で電動自転車を買おうと思うのですが」
牧師「それは有り難うございます。これで信徒訪問ができますね」
信徒「そうですね」
牧師「これが、本当の『伝道自転車』です」

3. 地の塩

信徒1「キリスト者は“地の塩”と言われる人たちなんだよね」
信徒2「そうだけど、そのキリスト者の数が少なくなっているんだ」
信徒1「仕方ないよ」
信徒2「どうして」
信徒1「だって、現代は“塩分ひかえめ”の時代だからね」

特別編 共謀罪

信徒1「ついに『共謀罪』が成立したけど・・・」
信徒2「キリスト教にとっては大問題かも」
信徒1「どうして」
信徒2「だって、2千年前イエスが捕まったのも、弟子たちと共謀して国の安定をおびやかすと思われて逮捕されたんだから」
信徒1「なるほど、罪のない人が捕まる可能性があるんだね」
信徒2「そう、まさに『凶暴罪』だよ」